

(様式2)

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1595400027		
法人名	有限会社 大輪		
事業所名	グループホーム 奥阿賀 大輪の里		
所在地	新潟県東蒲原郡阿賀町鹿瀬11603番地		
自己評価作成日	平成30年9月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成30年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム奥阿賀大輪の里は「角神温泉郷」の中の自然が豊かで四季折々の風景が身近に感じる事のできる静かで安全な高台に立地しています。建物は木のぬくもりのある造りで、お風呂は自慢の天然温泉でゆっくりと入浴する事ができます。当町は過疎化が進んでいますが、地域とのつながりを構築していきたいと力をいれているところです。また利用者には質の良いサービス提供をめざし、職員に対してはさらなるスキル向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな四季の移ろいが感じられる温泉郷の中に立地しており、事業所にも引かれている温泉は利用者の大きな楽しみのひとつとなっている。事業所の周りにはいわゆる「ご近所さん」がない立地ではあるものの、利用者とともに「地域の茶の間」に向いたり、ボランティアの方々に来訪してもらうなど、地域の方々との交流が図られるよう取り組んでいる。

本人の意向を踏まえた支援がタイムリーに行えるよう、個別の担当職員が毎月個々の利用者の様子や介護計画に基づく支援の実施状況を「月間報告書」という形でまとめ、職員全体で情報を共有し検討ができる体制が取られている。利用者の変化や意向に対して細やかに素早く対応し、ケアの質の向上が図られるよう取り組んでいる。

管理者は長年地域において高齢者福祉に携わっており、事業所の業務の他にも個人的に頼られたり、相談を求められることが多く、地域の人たちの信頼を得ている。

利用者本位の生活を送ってもらえるよう、管理者、職員がコミュニケーションを密にしながら一体となって取り組んでいる事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえた上で利用者が安心して地域で暮らせるように努めている。	開設時からの理念や合言葉を継続しており、職員にコピーを配布したり、内部研修において職員に理念等の意味するところを確認している。	理念等については開設時に作られたものであるが、体制も変わってきた中で当初の経緯や背景も不明確になっている。現状の事業所の中での思いや方向性をあらためて確認し、理念等の見直しをすべきかどうかの判断を含め、全体で検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で指導や助言をいただきながら、機会あるごとに交流に努めている。	近隣の住民が少ないため地区の「地域の茶の間」に利用者とともに参加して地域の方々との交流をしたり、花火大会等の催しにも出向いて地域の方々との関わりを持っている。また、事業所の防災訓練に区長が参加したり、地域の趣味の会の方々ボランティアとして来訪し、活動を披露してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町から高齢者生活調査業務委託を受けているので、町内を訪問する機会がある。その時に地域の皆さんの相談に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や職員の取組等を詳細に報告をしている。そこで助言等をいただきサービス向上に取り組んでいる。	事業所の報告を中心に会議が行われているが、行事と兼ねて実施する時もあり、事業所内の様子も把握してもらっている。メンバーから事故について改善結果や経過報告を求められ、対応について助言をもらったこともある。利用者に対しては会議に出席している家族代表から内容について伝えており、また、会議に参加しない家族にも記録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に町地域包括支援センター等と連絡、相談を行っている。町主催の研修にも参加している。	地域包括支援センターとは日常的に、事業所運営や利用者のことなどで連絡や相談を行っている。町の担当部署とも制度や手続き関係について連携を図っている。行政主催の事業所向け研修も多く、情報交換の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化の為の方策を検討する委員会を定期的に開催して、内部研修においても話し合っている。	今年度より検討委員会を設置するとともに、日頃のミーティングにおいて対応方法を話し合い、また、センサーマット等の福祉用具を使用することによって身体拘束をしないケアの徹底をしている。さらに、外部から講師を招いて研修会を行い、職員の学びと意識の向上を図っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	7/30県介護福祉士会による「高齢者虐待防止及び身体拘束廃止について」の研修を全職員が受けた。虐待が起きないように職員相互でフォローやアドバイスを行っている。	日頃の申し送りやミーティングにおいて職員間で対応について話し合うことにより、虐待や不適切なケアの未然防止に努めている。また、虐待防止に関する研修に職員が参加し、事業所内でその内容を伝達・共有して実践することで、事業所全体での取り組みにつなげている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついている利用者が入所したため、具体的に話をする事で周知、理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が利用者、家族等に対して丁寧に説明をしているので理解、納得して頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のミーティング、内部研修、運営推進会議で話し合いがされ、反映されている。	家族とは面会時に必ず話をするようにしており、やり取りの中で疑問や質問などについては細かに確認して回答している。面会に来れない家族へはメールや手紙等で随時様子を伝えている。日々の関わりの中で出てきた利用者の意向等については、毎日のミーティング等で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修には代表者である社長も出席しているので、意見や提案等を聞く機会があるので反映されている。	内部研修には社長が出席し、事前アンケートをもとに職員との意見交換を行っており、個別面談の機会も設けられている。日頃から管理者が職員に声をかけて個別に面談をしたり、ミーティングなどでも職員が意見や要望を伝える機会が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しずつではあるが改善に向けて整備されてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修に参加しており、内部研修での報告する機会や復命書を見ることで、研修内容の共有が図られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等を通じて他事業所との交流する機会があり、情報交換ができています。情報を得る事で気づきにつながっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはできるだけ本人、家族、関係者から話を聞いて、安心して生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安な事や要望、希望を事前に把握している。また入所後は家族との連絡、報告等密にしており、安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族との話だけでなく、行動にも目を配り、必要なサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が当施設を選んだ下さったという感謝の気持ちを持ちながら一方的な立場にならないように対等な関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報は家族等にメールや電話で報告をしている。また面会時には直接話をする事で良好な関係づくりに努めている。	利用者の日頃の様子については面会時やメール、手紙、電話等で定期的に家族に伝えているほか、日頃と違う状況がある場合は随時連絡している。家族には町外の医療機関への受診や入院時の対応、本人の希望による外出などの対応を可能な限りお願いしており、家族との関わりを持ちながら本人が望む生活を送れるよう支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚等の方も来所しやすい環境づくりに努めている。また地域を忘れないように外出の機会を作っている。	入居前から知人や親戚の方々へ面会が可能であることを伝えており、来訪時には声かけをして日頃の様子を伝えるなどしている。本人の希望や家族の希望があれば自宅等なじみの場所への外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室内にこもらないように適時声掛けを行っている。貼り絵等の共同作業や全体レク、お手伝いを通してお互いに話をしたり、笑ったりする光景が見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、死亡等で終了しても家族からの相談には対応している。病院への面会、自宅への訪問もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から利用者の希望や意向が把握できるように努めている。	職員が利用者との関わりの中で把握した思いや意向については個別記録に残し、重要なものについては申し送りをして、日々のミーティングや内部研修において共有し検討している。利用者の状況に応じて、思いや意向が表出しやすいような問いかけ方を工夫している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で利用者、家族、利用しているサービス事業所の職員から出来るだけ詳しく聞き取りや確認をすることで、把握するように努めている。	入居前の面接で利用者や家族から聞き取りを行うとともに、利用していた事業所の職員等からも様子などを聞き取り、これまでの生活状況を把握するよう努めている。入居後も日々の関わりの中で得られた情報については、職員から報告を受けた管理者がアセスメント表等に追記して共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の状態を観察して、異変や変化、発見に気付けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月間報告書を提出してもらっている。モニタリングも実施している。必要時は家族や職員の見聞等を聞きながら介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族の意向を確認した上で、担当職員等の意見も踏まえて作成されている。利用者の様子を個別に記録する様式は介護計画の項目に沿ってチェックできるようになっており、計画に基づく支援の実施状況を把握しやすいものとなっている。また、担当職員によって作成される「月間報告書」により毎月定期的に申し送り時に報告されており、全体で共有できている。3ヶ月に1回実施しているモニタリングでは、あらかじめ課題を整理し、介護計画内容を見直す必要性を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態の変化や気付いた事などはすべて個々のケース記録に記載して、さらに個別の申し送り一覧表に記載する事で全職員が情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のミーティングを活用しながら、可能な限り本人や家族の希望に応じたサービスを提供できるよう柔軟な支援、サービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の集まり「みんなの家」に参加したり地域ボランティアを受け入れたりして利用者が楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携ノートを通じて細かく情報交換を行っている。また受診時は必ず職員が同行して状態の説明を行っている。	利用者や家族の意向を踏まえつつ適切な医療が受けられるよう支援しており、町内の医療機関への受診については事業所が対応している。町が作成した「連携ノート」を利用して関係機関との情報共有が円滑にできるような仕組みができている。町外の医療機関への受診については原則家族に対応してもらっており、その際も必要な情報提供ができるよう連絡票を作成して、円滑な受診を支援している。受診結果については必ず家族と共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院や診療所とは必要時は電話や相談に出向くことを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とは連絡を密にとりて情報交換等をしながら連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の対応範囲を説明して理解して頂いている。利用者の終末期については主治医、家族と相談をしてその内容については職員間で共有して支援に努めている。	入居契約時に、重度化した際に事業所で対応できる範囲と終末期に対する考え方について説明を行っている。実際に重度化した場合や医療行為が必要になった場合は、本人・家族の意向を踏まえつつも職員が不安にならないよう事業所内で対応について十分話し合いながら、できる限り対応できるよう努めている。	入居契約時の説明の際は、口頭で事業所としての対応できる範囲を伝えている。事業所として具体的に方針を掲げているのであれば、明文化して書面にして説明を行った方が利用者・家族が理解しやすいのではないか。利用者、家族がより安心して過ごせるよう、方針を理解・共有するための手段として明文化の検討を期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回避難訓練と同時にAED操作や応急手当の訓練を行っている。	AEDの操作方法と心肺蘇生法、誤嚥対応、骨折処置などの応急手当の訓練、感染症対応などについては毎年定期的に研修を実施し、職員全員が参加できる体制をとっている。マニュアルや連絡先等のフローチャートも整備されており、見やすい位置に掲示されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。また地域の区長との連絡体制を整えた。運営推進委員の方々からは、いざという時の協力も得られることになった。	消防署の協力も得ながら年2回、火災対応の避難訓練を実施している。運営推進会議の委員3名が災害時の協力体制に加わっており、区長からは訓練にも参加してもらっている。	事業所の環境から雪害や大雨、停電等の災害が予測されるため、火災以外の災害を想定したマニュアルや行動計画の整備、訓練の実施について検討が望まれる。また、事業所内での備蓄に関しても、飲食物の他に生活上必要な物資の準備について検討を期待したい。どのような状況下でも可能な限り、利用者・職員の安全・安心が確保されるよう、災害対策のさらなる充実を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分が利用者だったらどうして欲しいか？と常に意識して支援している。居室に入る時、オムツ交換の時、衣類の整理をするときなど、誤解を生じないようにプライバシーが守られるように配慮して対応している。	実際にあった場面に即してミーティング等で振り返り、どのようにすればよいのか対応について全体で考える機会を持っている。必要に応じて、管理者が職員に個別に話をすることもある。また、教材等を準備して職員に学習してもらい、一人ひとりを尊重したケアができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人の思いや希望をくみ取るようにしている。できない方には複数の選択肢を用意して自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての時間を自由に過ごせることはできないが、個別レクでは本人の希望にそった支援をしている。食事時間は本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や家族の希望にそった支援をしている。自己決定できない利用者には職員が助言しながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いは把握しているので、嫌いな献立の時は代替えの献立で対応している。食事前には献立の紹介をしている。食後の茶碗拭きは交代でお手伝いをしてくれる。	献立は職員が2週間分ずつ交代で作成しており、食材は、地域の食生活改善推進委員である職員が栄養面を考えながら購入している。利用者のリクエスト、好みや嫌いなもの、栄養のバランス、季節等を踏まえて、おいしく楽しめるよう工夫している。利用者には片づけを中心に一緒に行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表が提示されると職員2名によるチェックが行われ、片寄り、重複等があれば是正される。利用者の状態に応じて、刻み食、トロミ食を提供している。水分量は毎日全員管理されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援をしている。洗口液での口腔ケアの支援もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握してできるだけトイレで排泄ができるように支援している。また夜間のみポータブルトイレ利用される方、日中のみトイレ使用の方と状態に応じた個別対応をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンはチェック表を活用して把握し、日中・夜間ともにできる限りトイレでの排泄ができるよう声かけ等を行っている。個々の状況と希望に応じてリハビリパンツやオムツ、ポータブルトイレなどの排泄用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の訴えが不十分な利用者に対しては排便チェック表を利用している。食事、水分、運動等いろいろと対応してもなお便秘の心配な利用者は、主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間については希望を受けての実施は現状では難しい。但し入浴時は利用者の体調を考慮しながら楽しんで入浴できるように努めている。	浴室には温泉が引かれており、利用者の大きな楽しみとなっている。入浴中は職員との会話を楽しみながら、体調に無理のない範囲でゆっくり入浴できるよう配慮している。入浴日についてはおおそ予定が組まれているが、本人の希望や体調によって臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所内の空調を配慮しながら休息したり、安心して眠れるようにしている。冬期間はテーブル全体がこたつとなり、利用者の楽しみの一つである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の薬については把握している。服薬支援時の氏名の確認、口腔内の確認をしている。症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや茶碗拭きの作業は「できること」に応じてお願いしている。全体レクではカラオケやゲーム等で気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年冬期間は大雪、夏は猛暑となかなか外出が出来るような状態でなかった。それでも天候を見ながら町内をドライブして景色や自然を楽しんでもらっている。家族の協力での外出も行われている。	季節や天候に合わせて散歩に出かけたり、町内へドライブに出かけたりしている。計画を立てて花見や花火大会、紅葉見物、外食ツアーなどグループでドライブに出かけて楽しめる機会を作っている。個別の希望による外出は家族からの協力を得ながら実現できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で「お預り金」として管理している。利用者が現金を所持して使う事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々家族と電話で話す機会を設けている。携帯電話を所持している利用者もいる。手紙等は本人に直接渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間全てにおいて衛生面、空調管理には気を付けている。ホールには季節ごとに共同作業で作上げた貼り絵を掲示して楽しんでもらっている。	快適に過ごせるよう共用部分の清掃や消毒を毎日丁寧に行なっている。温度・湿度も数値を設定して管理しており、物があちこちに置かれていることなく整理整頓も徹底されている。掲示物については利用者からの意見を踏まえ、掲示場所や仕方を変えるなど配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者には自由に過ごしていただいているが、時々テーブルの座席替えをして、いろいろな人と交流できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れたものは持参してもらっている。居室内は利用者の希望にそって模様替え等もしている。	利用者が使い慣れたものや馴染みのもの、思い入れのあるものなどを、居室に置ける範囲で持ち込んでもらっている。書籍や携帯電話などそれぞれが居心地よく過ごせるようなものを持ち込んでおり、しつらえなどは職員の協力も得ながらそれぞれが工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に移動ができるように、障害物はできるだけ排除して事故防止に気を付けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				